【レポート】

　安来市職労では32歳以下の若手組合員で構成するユース部があります。2019年よりユース部内に自治研グループを組織し、活動を行っております。本レポートでは、この自治研グループが行う、「地域とつながる活動」を紹介し、今後の地域と組合とのつながりについて提言します。

地域と一緒に盛り上がる安来の自治研

島根県本部／安来市職員労働組合・ユース部　松澤　彰典

地域と一緒に盛り上がる
安来の自治研

自治労島根県本部
安来市職員労働組合ユース部

はじめに

- 安来市職労では自治体政策部をはじめ、３２歳以下の若手組合員で構成されているユース部の自治研グループを中心に地域と一緒になって安来市を盛り上げられるよう日々奮闘中である。
- そんな安来の取り組みを紹介する。

ユース部自治研グループ発足

自治体政策部は組合当初から存在しているが、ユース部の自治研グループは、2019年に新たに発足した。

それは、他団体と連携し、地域とのつながりを強化していく取組を通じて、よりよい地方行政や公共サービスについて研究・実践することが重要だという意識が若手から立ち上がったからである。

当初は手探りの中、具体的に何に取り組むのか、という課題検討からのスタートとなったが、以前より行っていた「平和まつり」や民間団体との交流から、少しずつ新たな試みに挑戦している。

①商工会議所青年部との活動

- 市内事業者で組織されている「安来商工会議所青年部」と2021年から交流を兼ねて学習会などを開催している。
- 仕事だけではつながれない若手民間経営者と交流し、意見を交わすことで、市政の在り方を多角的に考える力を養えるようになるいい機会と捉えている。
- 今までの活動として　SDGs学習会、安来庁舎イルミネーション点灯式、プチ運動会など

プチ運動会の風船リレーの様子

身体を動かしての交流は、楽しみながら親密度を上げることができる

イルミネーション点灯式で縁日の開催

②平和まつり

- 子どもたちに平和の大切さを再認識してもらうことを目的とし、毎年平和まつりを開催しており、今年で22回目を迎える。
- 誰でも参加でき、かき氷やニュースポーツなどの縁日のほかに千羽鶴の作成や「平和の集い（市内行事）」で飾られる行燈の作成を通じて、地域住民との交流を図っています。

平和の願いを込めて真剣に行燈作成中

スカットボールを素手でする幼児

③節分鬼ボランティア

- 市内保育施設から節分の鬼役になってくれる若い男性がいたらなあ、という声に組合として対応できないか検討し、10年前から実施し、以降継続事業化している。
- 毎年、市内保育施設の節分行事で鬼役として登場し、子どもたちから豆を投げつけられている。
- 普段、なかなか子どもたちと触れ合うことはないため、いい機会である

鬼襲来！立ち向かう子どもたち

③いちごカフェ

- 市内のいちごをふんだんに使ったパフェやタルトで組合員や地域の方をおもてなし。
- 安来市の特産物である「いちご」ですが、安来に住んでいても、あまり食べたことのない人が意外と多いとのこと・・・ぜひこの機会に組合員や地域の方に安来のいちごを知って食べて、地域の活性化に繋がってほしいという思いで今年初めて試みた。

ユース部員が作ったいちごのお菓子

いちごをたく
さん使った
映えるス
イーツ！

いちごをむさぼり食う幼児

④ゆる繋YASUGI

- ゆる～くつながれるをモットーに市内有志のあつまりがあり、そこにユース部も参加している。
- まだ始まったばかりであり、試行錯誤しているが、市内全体にリアルで気楽に会える仲間やグループが生まれるといいなという思いで活動をしている。

第1回ゆる繋カフェの様子

グループワークのお題は安来のいいとこ変えたいとこについて

アイスブレイクでマシュマロタワーに挑戦！

カフェにちなんでシフォンケーキも用意！

今後の挑戦

- これらの民間団体や市民との協働を通じて、「行政は民間を、民間は行政を必要としていること」を改めて認識した。
- 今後の挑戦としては、市内事業（飲食や商品など）を組合員へ斡旋する活動ができたらおもしろいなと考える。事業者にもおいしいが、組合員になるメリットもあるため、組合離れの軽減と地域活性化を両立したWin-Winの関係化を目指したい。

おわりに

- 自治研はとても自由で、組合活動と普段の市役所職員としての業務、地元での活動などの線引きが難しい。
- 今回紹介した事例も果たして本当の意味での自治研となっているのか些か不安ではあるが、地域と私たちが仕事以外の場で繋がりを持ち、同じ目線で地域課題に取り組み、安来市のさらなる飛躍を目指して、精進していきたい。